

逢坂むらづくり協議会だより

発行者 逢坂むらづくり協議会 事務局 逢坂地区公民館 TEL 0857-84-2455 FAX 84-2465 Mail cc-osaka@it.city.tottori.tottori.jp 令和6年度4号



2月27日のなめこの植菌に集まっていた皆さん。

逢坂を考える会

鳥獣被害ゼロを目指して

「令和6年度逢坂を考える会」が3月8日、逢坂地区公民館で開かれ、日田鳥獣被害対策委員会の小谷知哉委員長が鳥獣被害への対応をテーマに講演。イノシシやシカによる被害から農地や集落、住民を守るために行った活動を紹介し、約30人が熱心に耳を傾けました。

同委員会がある八頭町日田は若桜町に隣接した山間の集落。2006年ごろからイノシシによる農産物被害が増え始め、11年にはイノシシに代わってシカによる被害が急増し、住宅地にまで出没するようになりまし

た。当初は農事組合が対策を担っていましたが、住民への危険が高まったため、自治会や農事組合、日田を良くする会（多面的機能支払い事業推進団体）で同委員会を設立。集落全体で取り組む体制をつくりました。対策の中心は侵入防止と捕

獲。隣接する集落にも協力を求めて集落を囲うように柵を設置したほか、檻を置いてシカやイノシシを捕獲しました。

実際の活動について小谷委員長は、被害の大小で対応に差をつけられない▽すぐに対応する▽個人差を認め、共同作業などで同じ質や量を求めない―ことなどを心掛けていると説明。「対応に差をつけたり、個人差を認めない活動は住民に不満や不信の気持ちを生みます。住民が、できることを、できるときに、できるだけすることで、集落全体で取り組む気持ちが生まれ、対策の効果も上がるのだと思います」と話しました。（総務部）



南部町を視察

逢坂むらづくり協議会は南部町のあいみ富有の里地域振興協議会とキナルなんぶを視察しました。

・あいみ富有の里地域振興協議会 大山のすそ野に広がる南部町は2004年に旧会見町と旧西伯町が合併。町には7つの協議会があり、その一つが「あいみ富有の里地域振興協議会」（人口998人、集落数12、高齢化率43・9%）です。ここには「浅井のうぐいつき漁」があり、「大堤のうぐい突き」と同一行事として県の重要民俗文化財の指定（令和2年）を受けています。

逢坂と同じような農村地域（稲作、柿や梨などの果樹）であり、過疎化、高齢化は進んでいるとのこと。しかし、地域のにぎわいづくりや課題解決に取り組む様子、また公民館事業や学校との連携、小学生の見守り活動や地域福祉の推進など、住民自ら取り組む活動は大変参考になりました。



また、集落からの役員の選出に苦慮、農産加工施設の法人化、ジェラート店が入る地域交流拠点施設を利用した観光や産業の振興、高齢者の移動手段や買い物難民の対応、空き家の活用等、同じような悩みを多岐にわたってお聞かせいただきました。

・キナルなんぶ 西伯小学校のとなりであり、南部町の中心部に新しくできた、図書館と小さなホールや博物館などがある複合施設。放課後に集まってきた小学生に話しかけても臆せず直ぐに返事が返ってくるなど、自由に過ごしている様子を微笑ましく感じました。（総務部）

写真教室開催

1月26日、逢坂地区公民館で「写真教室」を開きました。逢坂むらづくり協議会では毎年、地区の魅力ある人や風景、行事、イベントなどを紹介する写真展を開いています。より多くの方からの作品応募のきっかけになればというのが狙いです。

鹿野写真クラブの杉野昭久さんを講師に招き、写真撮影の基本となる絞りやシャッタースピードの設定など学び、外に出て実際に写真を撮ってみました。参加者は9人で、スマートフォンや一眼レフで鷲峰山をバックにスキを撮り、杉野さんからアドバイスを受けた。参加者同士でスマートフォンでの撮影法を教えあったりしました。（えにし部）



小さな拠点事業終了

鳥取県と鳥取市の事業として令和4年度に始まった小さな拠点づくり支援事業は6年度で終了します。過疎や高齢化が進む中山間地域のさまざまな課題を解決するための組織づくりを支援する事業で、支援員1人が配置されました。

初年度は支援員の交代などもあり、思うような活動ができませんでした。2年目を迎えた逢坂むらづくり協議会のホームページの立ち上げや法人化の検討、地域交通や廃校後の逢坂小学校の利活用に関する調査などに取り組みました。逢坂小学校の6年生に自分に宛てた手紙を書いてもらって保管し、6年後に取り出す逢坂タイムカプセル事業を始めるなど地区出身者と地区をつなぐ事業にも力を入れました。

事業は終了しますが、小さな拠点で取り組んだ活動はむらづくり協議会が引き継ぎ、継続していくことにしています。

今年度を振り返って

総務部

地域の課題に逢坂小学校の児童数の減少があります。学校の在り様を検討し、浜村小学校への編入要望を出しました。

逢坂小学校創立100周年（2010年）を記念して埋設されたタイムカプセルの掘り起こしをトコトデザインとの協力で、昨年8月に実施。逢坂小出身の青年たちが多数集り、掘り出した写真や作文を懐かしんでいた姿が印象的でした。この若者との関係が維持できれば、彼らがどこで活躍しようとも、いずれかこの逢坂に良い影響を与えてくれると期待しています。

組織の強化を図るため、法人化等の検討を行っています。また、組織の一体化を目指して令和4年度より一括交付金制度を導入。この制度は、類似の組織が一体化することで組織の整理や役員の負担軽減へつながり、地域の実情にあった取り組みが図れます。今ここに立ち返り、協議会と公民館等の一体化を協議しています。

今年度、公民館まつりと防災訓

なめこ菌の植え付け

本年も桜の原木に、なめこ菌の植え付けをする体験会を実施しました。昨年12月に下石地内で山桜の伐採を行い、2月27日に新沼敬行さんの指導のもと、10名が参加して植菌体験をしました。

原木にドリルで20個程度の穴をあけ、なめこ菌の原木を木づち等でたたいて埋め込みました。うまくたたかないとコマ菌が埋まらず潰れてしまったりして、皆さんが四苦八苦しながら作業していました。

植菌した原木は、日の当たらない湿気の高い土のうえに並べておくと、一年半から2年すると収穫できるようです。なめこが入ったみそ汁が食べられるよう楽しみに待ちましょう。

(地域再生部)



練習いきいき市場が同一日に開催され、多くの住民の参加がありました。ただ、時間的に制約があるなかでの防災訓練でしたので、来年度は開催日や内容を検討し、より有意義な訓練となるよう実行したいと考えています。自分事として取り組む防災訓練が必要で、気高循環バスでは要望が実り、12月から気高中学校まで運行されています。

(部長・久野壯)

地域再生部

地域資源活用として、地域にある桜の木を使って植菌体験を実施し、好評でした。循環型農業の堆肥作りは、来年度の対応を考えています。

景観形成では郡家の土手、山宮入口の土手に植わっている芝桜の草刈り等、皆さんの手を借りて管理し、きれいになりました。忠魂碑の立ち木の除去について、地域の方からの相談があり、緊急を要したため、臨時的に対応しました。今後は区長会等と対応を検討していきたいと思っています。

風車設置については引き続き問題意識を持って対応していきます。鳥獣被害対策では勉強会を開き、

逢坂タイムカプセル納め式

「またここで会おう!逢坂タイムカプセル」の納め式を3月5日、逢坂小学校で行いました。この事業は、卒業を控えた6年生に将来の自分にあてた手紙を書いてもらい、タイムカプセルに入れて保管し、6年後に自身の手で取り出してもらうものです。令和6年度が第1回。来年度以降も続ける計画です。

タイムカプセルは通常、グラウンドなどに埋めますが、掘り出しが困難なので、逢坂タイムカプセルは書類などを保管する収納庫で代用。収納と取出しが容易に行えるようにしました。5日の納め式では、6年生5人が下級生や教職員、逢坂むらぶくり協議会の役員らが見守る中、手紙に込めた思いを一人ずつ発表。卒業文集と一緒に手紙を書類ケースに納め、そのケースを収納庫に入れて鍵をかけました。

手紙を取り出すのは6年後。6年生が18歳の成人となり、高校を卒業する時です。進学や就

被害対策について考えてもらう機会を設けました。狩猟免許の取得についても広報しており、今後具体的な対策を進めていけたらと考えています。

遊休農地対策では、遊休農地等の調査結果を各地区にお配りし、今後の利活用に活かしていただきたいと思っています。部会でも参考にできる事例がないか思考しています。

(部長・尾崎満信)

協育共生部

予定していた事業を全て実施しました。子ども秋祭りは校内駅伝大会後に行い、トコトデザインの協力で「段ボール製の剣づくり」を新たに取り入れました。準備では遅くとも2週間前までに参加者の人数把握が必要と感じました。来年度は10月4日(土)の開催を予定しています。

学校清掃を毎月第1・3金曜日の13時15分〜30分に行いました。常時10人前後の参加者がありました。

世代間交流グラウンドゴルフを「ふれまち」との協賛で行い、職で県外に出ていく人がいるかもしれません。そのような人生の大きな節目に、6年間を過ごした小学校に戻り、自分への手紙を読む。逢坂タイムカプセルが、卒業生のその後の人生に少しでもプラスになり、勇気や元気を感じてもらえることになれば、と願っています。

(総務部)



た。来年度も開催予定です。放課後子ども教室は毎週火・木曜日の15時〜17時に行い、14人が参加しました。来年度の参加児童を募集中です。

(部長・加山俊則)

えにし部

計画した事業は、概ね予定通り行うことができました。私が逢坂に嫁いで来て40年近くになりますが、今年は初めての経験をいろいろさせていただきました。殿、布勢の清水の清掃活動(大学生や留学生と地域住民との交流)に参加して布勢の清水の冷たさ、留学生の伝承文化を体験しようとする姿勢、集落のみなさんの地元の宝を守るためのご苦労を知る事ができました。大堤のうぐい突き、水を抜いた大堤の大きさ、大堤から見る鷲峰山の雄大さ、まだまだ知らない事ばかりでした。

今年の反省や課題を来年度につなげる工夫をし、様々な事業や交流活動が逢坂全体に広まって多くの方に参加協力してもらえようように、今後とも活動していきたいと考えています。

(部長・嶋澤真澄)

逢坂地区を訪れるそうした外国人にも地区の概要や魅力が一目でわかるよう、既存の日本語版のガイドマップを基に英語版を作製しました。翻訳は鳥取大の片桐順二准教授にお願いしました。国道9号や山陰道、JR浜村駅などから逢坂地区を訪れる人が使用しやすいよう、鷲峰山が上になるように地図のデザインを変更しました。同じデザインの日本語版もA3サイズとA4サイズの2種類を作りました。小ぶりを持ち運びしやすいA4版は道の駅などに置いて逢坂地区のPRに役立てることにしています。

(総務部)

逢坂ガイドマップ英語版

逢坂地区の名所や文化財などを紹介する逢坂ガイドマップに、新たに英語版が加わりました。

布勢の清水の清掃作業や大堤のうぐい突きに鳥取大の留学生が参加してくれるなど、逢坂地区でも国際交流が進んでいます。

逢坂ガイドマップ

こちらでご覧いただけます。



英語版



日本語版



逢坂むらづくり協議会のホームページが出来ました。スマホはこちら→パソコンでもご覧になれます。
<https://osaka-murakyou.info/>